

平成 30 年 6 月 4 日現在

機関番号：22701

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2017

課題番号：26861896

研究課題名(和文) PCI後急性心筋梗塞患者へのうつ病発症予防を目的とした看護介入方法の開発

研究課題名(英文) Developing nursing intervention for preventing depression in patients diagnosed with acute myocardial infarction after undergoing percutaneous coronary intervention

研究代表者

土肥 真奈(菅野)(DOI, Mana)

横浜市立大学・医学部・講師

研究者番号：50721081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：経皮的冠動脈形成術後の急性心筋梗塞患者を含む急性冠症候群患者のうつ状態等の精神的健康状態について先行研究を広く調べたところ、その実態は明らかになっていなかったため患者約10名を対象にインタビューを行い、その後インタビュー結果が多数の患者を対象にした場合にも当てはまるかどうかを検証する目的で量的に調査した。文献検討の結果についてはすでに発表されており、質的研究、量的研究の2研究はそれぞれ論文執筆し、現在査読中である。

研究成果の概要(英文)：We conducted a literature review of mental health of patients diagnosed with acute coronary syndrome who underwent percutaneous coronary intervention. Moreover, qualitative research and quantitative research were conducted. We submitted three papers.

研究分野：循環器看護

キーワード：論文発表

1. 研究開始当初の背景

食習慣の欧米化を含む生活習慣の変化により現在心筋梗塞を含む虚血性心疾患患者は多く¹⁾、多くの心筋梗塞患者がうつ病を合併することが知られ、国外の報告ではその有病率は15%~39%といわれている²⁾⁻⁶⁾。急性心筋梗塞は死を連想するような胸痛を伴うこともあり、また急性発症であるために急激な変化に伴う身体的・精神的負担は大きい。経皮的冠動脈形成術 (Percutaneous Coronary Intervention: PCI) の普及により多くの患者が身体的負担を少なく、低侵襲に治療を受けることが可能になっているが、治療が低侵襲であっても患者が受けた経験は同じであり、PCI後の急性心筋梗塞患者のうつ病発症リスクは高いことが予測される。

急性心筋梗塞患者のうつ病発症や、尺度を用いて測定したうつ得点と関連がある要因としては医療上の負担や社会サポートの少なさ、不安等が報告されている⁷⁾⁻⁸⁾。特に不安については、Trotterらが、PCI後の急性心筋梗塞患者の多くが不安をもつことを明らかにしている⁹⁾。ほかにもMurphyらが急性心筋梗塞患者を対象とした研究において不安とうつ得点の関連を示しているが、その因果関係は明らかになっていない²⁾。

急性心筋梗塞患者の多くが不安をもつことや、うつ病を合併することはすでに明らかだが、うつ病発症に関しては、日本に限らずPCI後の急性心筋梗塞患者に特化した結果は報告されていないのが現状である。日本でのPCI実施数は増加傾向にあり¹⁰⁾、前述した予測を考慮すると、低侵襲な治療で早期社会復帰が可能な患者に対しても身体・心理・社会的な側面を包括した看護ケアを充実させることは喫緊の課題である。しかし、現状では低侵襲な治療ゆえの在院日数短縮により、看護師が患者と十分に関わることができる時間の確保は困難であり、患者は精神的ケアや退院後の生活準備のための介入が十分提供されないまま自宅へ戻っているのが実情である。本邦での介入効果の検証はほとんど行われていないが¹¹⁾、在院日数の短縮による入院期間中の時間的な制限も加味すると、PCI後の急性心筋梗塞後患者への効果的な看護介入方法の検討は必須である。したがって本研究では、先行研究ですでに明らかになっている不安を含む影響要因とうつ病発症の因果関係を調査し、うつ病発症予防を目的とした看護介入方法の開発へつなげる。

2. 研究の目的

うつ病発症率とその影響要因を明らかに

するため、量的な縦断研究、インタビュー調査を通し影響要因について考察を深め、うつ病発症の予防を目的とした看護介入方法を検討する。

3. 研究の方法

1) 文献レビュー・情報収集

文献検索データベース PubMed、CINAHL、医学中央雑誌を用い、PCI後の急性心筋梗塞患者のうつ病発症率 (有病率含む) や影響要因に関して調査された研究を系統的に考察し研究動向を把握する。文献レビューで得られた結果をもとに、縦断研究において使用する尺度や調査項目を決定し、研究計画を立案する。先行研究から患者がもつ不安はうつ病の要因として強く影響することが予測されるため¹⁾、うつ病に関する文献レビューと同時進行でPCI後の急性心筋梗塞患者がもつ不安について調査した研究論文、書籍をもとに調査項目を精選する。さらに国内外の学会に参加し、論文発表されていない新規活動報告からの情報も考慮する。

2) フィールド調整・インタビュー調査

PCIを実施している病院の協力を得て、該当病院の倫理審査委員会に申請、承認を得た。その後、文献レビューにて把握された患者の精神的健康やその影響要因について、また文献レビューで得られなかった他の影響要因がないか、約10名の患者を対象にインタビュー調査した。

3) 縦断的調査データ収集開始

縦断研究を行うにあたり研究実施施設を検討する。研究対象は急性冠症候群を新規発症し、PCIを受けた患者とし、独立変数を“患者がもつ不安(得点)”、そのほか文献レビューとインタビュー調査にて彰显になった潜在要因とし、従属変数を“うつ得点”もしくは“カットオフ値を用いたうつ病発症の有無”として縦断的に調査し、患者がもつ両者の因果関係を明らかにすることを旨とする。研究フォローアップ期間は3か月とし、尺度は the Hospital Anxiety and Depression Scale (HADS)²⁾、を用いる。

4. 研究成果

患者はうつ状態に陥る者もあり、うつ状態にまで至らずとも再発や胸部症状出現に対し恐怖をもつことが明らかになった。うつ状態の影響要因としては不安や自己効力感、自分の役割に対する満足感や身体状態などが候補として挙げたが、影響要因として示されたのはもともとのうつ得点のほか2因子だった。

<引用文献>

1)厚生労働省:厚生統計要覧(平成24年度)

第2編保健衛生 第2章医療 第2-66表
総患者数、性×傷病分類別

http://www.mhlw.go.jp/toukei/youran/indexyk_2_2.html(検索日 2013年10月12日)

- 2) Murphy BM, Le Grande MR, Navaratnam HS, Higgins RO, Elliott PC, Turner A, Rogerson MC, Worcester MU, Goble AJ : Are poor health behaviours in anxious and depressed cardiac patients explained by sociodemographic factors?, Eur J Prev Cardiol, Epub ahead of print, 1-9, 2012 .
- 3) Stafford L, Jackson HJ, Berk M : Cognitive-personality style as vulnerability to depression in patients with coronary artery disease- roles of sociotropy and autonomy-, Psychosom Med, 71(1), 63-9, 2008.
- 4) Naqvi TZ, Rafique AM, Andreas V, Rahban M, Mirocha J, Naqvi SS : Predictors of depressive symptoms post-acute coronary syndrome, Gend Med, 4(4), 339-51, 2007.
- 5) Kaptein KI, de Jonge P, van den Brink RH, Korf J : Course of depressive symptoms after myocardial infarction and cardiac prognosis: a latent class analysis, Psychosom Med, 68(5), 662-8, 2006 .
- 6) Lauzon C, Beck CA, Huynh T, Dion D, Racine N, Carignan S, Diodati JG, Charbonneau F, Dupuis R, Pilote L : Depression and prognosis following hospital admission because of acute myocardial infarction, CMAJ, 168(5), 547-52, 2003.
- 7) Rudisch B, Nemeroff CB : Epidemiology of comorbid coronary artery disease and depression, Biol Psychiatry, 54(3), 227-40, 2003 .
- 8) Schrader G, Cheek F, Hordacre AL, Marker J : Predictors of depression 12 months after cardiac hospitalization- the identifying depression as a comorbid condition study-, Aust N Z J Psychiatry, 40(11-12), 1025-30, 2006 .
- 9) Trotter R, Gallagher R, Donoghue J : Anxiety in patients undergoing percutaneous coronary interventions, Heart Lung, 40(3), 185-92, 2010 .
- 10) 後藤葉一: わが国における急性心筋梗塞症の診療に関する実態調査 PCI と心臓リハビリテーションの普及実態、冠疾患誌、14、1-6、2008.
- 11) 菅野真奈: 虚血性心疾患患者の退院後

の生活を支える看護介入の考察 過去10年間の文献検討から、臨牀看護、39(6)、900-4、2013.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

Doi-Kanno M, Fukahori H. Predictors of Depression in Patients Diagnosed with Myocardial Infarction after Undergoing Percutaneous Coronary Intervention: A literature review. J Med Dent Sci. 2016;63(2-3):37-43. 査読有

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

土肥 真奈 (DOI Mana)
横浜市立大学・医学部・講師
研究者番号：50721081

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(4)研究協力者

深堀 浩樹 (FUKAHORI Hiroki)

叶谷 由佳 (KANOYA Yuka)